

学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点				
<p>指導内容・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数や理科において、TT や少人数指導など、個に応じた指導の工夫・改善に努める。 総合的な学習の時間や道徳をはじめ全教育活動において、体験的な活動を重視するとともに言語活動の充実を図り、児童の思考力・判断力・表現力を養う。 保護者や地域の方々にコミュニティーティーチャーや図書ボランティアを依頼し、本物にふれる学習や読み聞かせ指導など充実することを通して児童の豊かな心を育成する。 新聞の記事を活用したり、コンピュータを活用した授業を展開したりしながら、情報収集能力や活用能力を育成する。 	<p>教育課程上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着をより一層図るため、国語・算数を10～20時間標準時数よりも多く設定する。 週3回朝学習の時間、週1回全校朝読書の日(15分間)を設定する。 学習意欲の向上や主体的な問題解決能力、思考力・判断力・表現力を育成するため、総合的な学習の時間や道徳を有機的に関連させた体験学習や交流学習を編成することを通して、習得した学習内容の活用し探求的に学習活動を展開させる。 土曜事業の実施により、教育活動を充実するとともに、授業時数を確保し日頃の学習活動を充実する。 	<p>校内研究・研修の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研究においては、言語活動の充実を通して、児童の思考力・判断力・表現力の育成について研究を深める 国語科・算数科における児童の実態を調査し、身に付けさせたい確かな学力を明確にするとともに、授業改善を図り、児童一人一人に基本的な読解力を育成する。 国語科を中心に、書く力や話す力を着実に伸長し、他教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間への活用を図る。 全学年が研究授業を行い、指導の改善に努めると共に、地域・保護者対象の自主発表会を開催する。 	<p>評価活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の評価について、それぞれの学年の評価規準に照らし合わせ、その評価を指導に役立てる。 観点別評価規準に基づき、児童個々の学習状況を的確に把握し、学習への意欲を伸ばす肯定的な評価を行い、指導・援助の指導の手だてを確立する。 児童の自己評価や相互評価を活用し、児童が主体的に学習に取り組むための評価を行う。 学力調査結果を分析して課題を把握し、授業改善推進プランに反映し、個々の教員の授業改善に生かす。 	<p>家庭・地域社会との連携の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの学校公開期間や道徳授業地区公開講座・保護者会・個人面談・学校説明会・学力調査結果説明会などの充実を図り、保護者や地域の方々の相互理解をさらに深める。 保護者や学校評議員による外部評価を実施し、その結果の分析を行う。また、専門家による第三者評価、教員による内部評価と重ね合わせて、授業改善に努める。 スクールコーディネーター制度を有効に活用し、地域の教育力を積極的に生かすようにする。また、教育ボランティアなど、保護者や地域の方々の協力を得て、より一層開かれた学校運営の推進に努める。